

## 平成 28 年度 第 2 回南区教育ミーティング 会議録概要

開催日時	平成 28 年 12 月 5 日(月)午後 1 時 00 分から午後 2 時 30 分まで
会 場	南区役所 4階講堂
出席者	南区自治協議会委員 10 名 教育委員:藤田教育委員、田中教育委員 事務局:教育総務課課長補佐、地域教育推進課長、 白根地区公民館長、南区教育支援センター所長 南区役所:地域課長 傍聴者:1名
議 事	1 開会 2 教育委員挨拶(藤田教育委員) 3 出席者紹介 4 教育委員会情報提供 ・平成 28 年度 全国学力・学習状況調査 新潟市の結果について 南区教育支援センター 大坂所長より説明 5 事前質問回答 部会の委員から事前にいただいた事前アンケートについて大坂所長より説明 6 意見交換 テーマ 「地域と学校の連携について」 ～子どもの学力について、みんなでできることを考える～
自治協委員	味方の学習支援事業というものがあるが、どのようなものか内容について教えてもらえますか。
南区教育支援センター所長	味方小学校は、おむすびクラブというのを立ち上げ、その中には保護者だけではなくて地域のコミ協やいろんな方々が入って、学習、環境整備など、様々な活動について、学校をいろんな面から支援して下さっています。
自治協委員	味方中学校の資料にある毎週土曜日、3年生を対象に「土曜塾」を実施しているとあるが、どのような学習支援か。
南区教育支援センター指導主事	主に学習の落ち込んだところを地域の方々が放課後クラブの形で、英語や数学を中心に勉強を見ています。春、秋には、希望制で漢字検定を小学校と一緒に取り組んでいます。
自治協委員	対象者は、本人の希望ですか。どちらかというと学力が低い子を救うためのものか。どういう目的ですか。
教育委員会事務局	味方中学校では、昨年度まで「土曜学習教室」というものを実施していました。これは各區で一校ずつ行われていたものです。土曜日の午前中に学校の教室を開放して、例えば、大学生で教員を目指している方や地域で教員免許を持っている方から来ていただいて、宿題、学習でわからないところがあったら、その学習サポーターに聞いて学習を進めていく、あくまでも自主的な学習の場としていました。 今年度は、学校支援課のアフタースクール事業というものが放課後に行われ、そ

れに伴い「土曜学習教室」は平成 27 年度で終了しました。

自治協委員

新潟市は学習が非常に向上し、新潟市だけが地域教育コーディネーターを取り入れていて効果が上がっているという話がありました。しかし、新潟市は基礎的な学力が、どうしてもほかのところに比べ低いと言われました。何が原因で基礎的な学力が低下しているか、教育委員会ではどう考えているのでしょうか。

能力的なところも含め、学習が好きになる、嫌いになるというのは 3、4 年生ぐらいで決まると本で読んだことがある。

「土曜塾」のような支援が大事だと思うのですが、いかがでしょうか。

南区教育支援  
センター所長

データから見ても、家庭での学習時間がすこし少ないのではないかと、いうのが出ています。新潟市では全校にコーディネーターが配置され、他の市町村に比べて新潟市のようなコーディネーターがいてくれるといいのにといい声をよく聞きます。コーディネーターのおかげで、幅広い活動や学習活動ができており、地域の力の力も借りながら子どもたちがそれぞれの力で、助けてもらっています。

あとは家庭でどのくらい勉強しているのかが、基礎的な力の習得に影響しているかもしれないと思っています。

教育委員会  
事務局

学力を向上させるために学校では、授業の改善に取り組んでいます。誰でも分かる授業、見つけたことを生かせる授業、そういう授業を目指し、教育委員会で定期的に訪問しながら先生方の授業を見て、その都度指導しています。

そういう授業を改善する方法と、学習習慣をいかにして身に付けていくか、学習する楽しさをいかにして子どもたちが感じていくか、これも大事だろうと思います。

先ほどのコーディネーターや学校支援ボランティアのお話は、どちらかというと後者の方になるかと思っています。学校支援ボランティアが入って、とても学力が向上したと意識調査が高かったということは、子どもたちの学習指導をよりきめ細かに見てくださる人がいるということ、できた子をほめる人がたくさんいるということ、ここが大きいのではないかと思います。学習支援ボランティアが入ってそういう機会がたくさんあるということは、ある意味、学力向上につながっていくのではないかと感じています。

自治協委員

学習習慣を身に付けるために、昔から宿題が出ているのかと思うのですが、最近塾に通う子が多く、学校の宿題のほかに塾の勉強もしなければならぬためすごい学習の量があり、学校からの宿題の量が減ってきているのではないかと話を聞いたりもします。

その宿題について、学校ではどういうふうに出していて、どのくらいの量で、1 日の勉強時間「2 時間以上やっているかどうか」のアンケートもありましたけれども、そういう中で一番に宿題がどうなっているか気になります。

それから、先生方も研修などで授業の改善とかを考えておられると思いますが、数学や理科などの主要 5 教科の授業に 1 人の先生のほかに補助として、非常勤の先生や学習支援ボランティアなどが入っているといった実態があるのか、無いのか教えていただきたい。

南区教育支援

南区は中央区の学校に比べ、塾に通っているお子さんの数が少ないです。当

センター指導 主事	<p>然、学習習慣を身に付けるきっかけが宿題ということになりますが、少なくとも宿題を出していない小学校、中学校は見受けられません。ただし、子どもたちの意識の中には、宿題と「予習復習」とは別個に考えている場合が多いので、アンケート調査をした場合、「宿題」と出されれば「やっています。」となりますが、「予習復習はどうですか」というと、宿題と別個にしていますので、あまり良い数値にいかないということになります。</p>
	<p>南区の小学校も中学校も同じなのですが、なんとか学習習慣を身に付けさせるという目標に向かって、宿題、自主的に取り組む学習、それから予習復習を取り混ぜながら、学習意欲を高めていこうと取り組んでいます。</p> <p>先ほどのお話のように、子どもたちは学習ボランティアなど、多くの方にほめてもらうとやる気が出てくる。つぎも頑張ってみようとなります。</p> <p>「自分は頑張っているのだ、いいとこ来ているぞ」という気持ちになってもらうためにも、学習ボランティアの方が、ただ教えるだけではなく、そこにいて褒めてくださることで、かなり後押しして下さっていると学校を訪問して感じているところです。</p>
自治協委員	<p>コーディネーターさんに「私のほかに、どういう学習ボランティアがやっているのですか」と聞いたら、「算数や理科の時間で、算数の時間には大学生も入っています」ということでした。</p> <p>私は茨曾根の学童クラブに8年ぐらい行っています。宿題はいっぱいありますし、その量は本当に先生によって違います。</p> <p>1年生の最初の1～2ヵ月ぐらいは、宿題が無いのでカバンを放り投げた子が、今頃はカバンをおいてテーブルに向って宿題をやっています。それは見事な光景で、習慣になっています。誰かやらない子がいると「宿題あるでしょ」とほかの子が言っています。</p> <p>私が南区でもっと取り組んでもらいたいことは「ふれあいスクール事業」で、南区は月潟小だけで他一校もやっていません。どうして南区はできないのでしょうか。同じ農村地帯でもあり「その気があればできるのでは」と思います。</p> <p>その他、聞きたかったのは学習ボランティアの事です。私も頼まれて行っていますが、学校が何をしてほしいのかよく分かりません。</p> <p>最初に「どういうふうにやったらいいのですか？」と担当の先生に聞いたら「勉強は教えなくていいです。この子どもたちが、平穏な気持ちでいられるように見ていてください。」と大変難しいこと言われると思いました。誰でも出来るものではないなと思いました。教育委員会はどのようにお考えになっているのか、お聞かせください。</p> <p>また、その学習ボランティアの手当についてお聞きしたい。</p>
教育委員	<p>先ほどの自治協委員の意見に補足させていただきます。</p> <p>新潟市では、少人数学級に対する加配措置というのがあります。これは、国の支援を受けて新潟県、新潟市の方で決めているのですが、例えば1年生で、全国では35人学級なのですが、新潟県、新潟市では32人学級とできるだけ少ない人数で、スタートしています。</p> <p>また、国語や算数を中心に、学校の規模によりますが、学級担任ではない先生</p>

が一人程度、入っている学校もあります。全部に入っているとは限りませんが、子どもの数が多いとか、一学級が40人近いとか、そういうところでは、国語、算数を中心にできるだけ少ない人数、たとえば80人近い子どもの学級数は、普通ですと2学級なのですが、これを3学級に分けて、少ない人数で学習するようにというような制度もあります。

それから、新潟市は新潟大学と協定を結び、学習ボランティアとして大学生があちこちの学校に入って、担任の先生の補助となって、子どもたちの支援を行っています。

もうひとつ、宿題のことですが、先ほど「大変多いですよ」というお話がありました。やはり、学級担任の先生の考えが大きく左右しますが、学校によっては宿題は、宿題としてある程度出すけれども、それよりも自学(自主学習)というのですが、子どもが自ら問題を見つけて、自分で解いていくということを大事にしている学校も多くあります。特に、中学年から高学年につれ、自学の割合が増えています。そうすると子どもさんあるいは学校によっては、それもその自学を宿題とは言わない、子どもが自主的にやるのだから「自学」という学校もあり、決して宿題が減ってきたわけではないと思います。

学力がトップレベルの石川県教育委員会の方と話をした時に、「石川県は、金沢市がありますが、そんなに都会ではないので、やるべきことは「家庭学習をしっかりやる」こと。学校は、地域の保護者にしっかり言う。家庭は、また、しっかりやらせること。と言っていました。家庭学習については、新潟市もこれまでもやってきたのですが、さらに一歩進んでしっかりとそのことを考えていくべきと思っています。

教育委員会  
事務局

まず、ふれあいスクールの件について。南区では月潟小学校だけ取り組んでいます。毎年必ず、この時期に学校へ「来年度はいかがですか」と話をするのですが、なかなか広がっていないというのが現状です。校区が広がったり、放課後、時間が作れなかったりというのが大きな原因かと思っています。

ふれあいスクール事業については、学校の教育課程外のことになります。学校が主催ではなく、PTAと教育委員会で共催しています。学校へは「ノータッチでも良いですよ。ただ遊ぶ場を貸してください。そこに関わる人というのは、地域の方からお願いするので、そのため交通費程度になりますけれども、少ないですが費用弁償を出している。」ということです。

学校のお手伝いをしてくださいというとは違いますので、費用が違っているということになります。

学習ボランティアについては、専門性とかスキルアップの話があったかと思いますが、基本的には今ある資格、今ある知識を活用していただいてボランティアに参加していただくことが前提になると思います。地域の中で先生に近い人を育てて作るとか、そういう発想ではありません。学校と地域と社会教育施設、それぞれの役割がありまして、その役割を生かしながら子どもたちに関わってもらうことで、大きな力を発揮していくというのが「学社民の融合」の趣旨であると思いますから、この資格を地域で養成して、その中に入ってもらうとの発想はちょっと違うかなと思います。た

だ、お困りのように自分は何で協力しにいったのかと、これはきちんと説明しないと、逆にボランティアの方が困ってしまう現象になると思います。「こういう活動をしますので、協力してください。」と公表して、「こういうことがあるのです、不安があったら教えてくださいね。」と言ってお任せすることが順番だと思います。私どももきちんと説明していかなければならないと思っています。

自治協委員

水泳のボランティアを10年ぐらいやっていますが、最初の頃は、水泳のインストラクターをやっていたので、校長先生から、お手伝いと言われていったのです。何年かたったら、「どこでもいいので1クラス持ってください」と言われました。いきなり、このクラス持ってくださいと言われても「私、先生じゃないから」と思ったことがありました。

私から見ると新潟市の教育委員会は、ただ泳げるようであれば良いというやり方です。それだったら専門性の高い人を頼んで、教えればと良いと思うのですが、いかがでしょうか。

教育委員会  
事務局

学校に入っていていただく方にもいろんなタイプの方がいます。

例えば専門的な知識、技術をお持ちの方、その方をゲストティーチャーとしてお迎えしてお話をしてもらい、物づくりをもらい、という役割で入られる場合と、先生がこういう活動をするので、その補助をしてください、こういうところで子どもたちを見てくださいなど、いろいろな役割があるかと思っています。

先ほどのとおり「こういうことに力を貸してください」ときちんと話をしないと、ボランティアさんと協力することは難しいと感じました。その辺は各学校に指導して参りたいと思います。

自治協委員

自分のできることは協力できたらと、小学校の手芸クラブやミシンの補助としてできるときは出ています。一人の先生が見るのは限度があるので、地域のもっと多くの方々に協力いただければ良いと思います。ちょっとずつ声をかけて行きたいと思っています。

自治協委員

私の地区の子どもたちは、「みんな素直でとても良い子どもたちですよ」といつも先生の方から言われるのですが、学力となると「なかなか向上しない」という厳しいお話もいただいています。

私も子育てをした一人として、地区の子どもたちは素直でやさしい子ばかりなのですが、やはり学習の習慣が身につかないということだと思います。

小学校はスクールバスで帰るので、放課後、学校での学習はほとんどできません。

学校としては「宿題を出しました。あとは家庭でお願いします。」ということですが、学校と家庭がもう少し連携して、子どもたちに宿題なり、自学なりで習慣づけさせる方法を探っていきたいと思います。また、地域の中にもそういう学習に協力できる方たちがたくさんいますので、放課後を利用して、地域としてできることが何であるかということもこれからも探り続け、地域で協力できる体制づくりができると良いと思います。

自治協委員

一世代前の自分の子どもたちのときは、新潟市の合併前で、私の地区の中学校

のレベルは前から高い方だったと言われて、一生懸命子どもたちが頑張っているという話は聞いたことがあるのですが、合併後はあまり聞かなくなりました。

私の孫は勉強が苦手で、低学年の時に勉強大嫌いで、塾とか考えず中学校から塾に行ったのですが長続きしませんでした。

しかし、小学校6年生の時の担任が素晴らしい先生で、「落ちこぼれをなくそう」と本当に一生懸命になっていただきました。学校でいじめられたこともあるのですが、そのいじめもその先生が解決に導いてくださって、今、高校生になりました。その先生の力の影響がすごく大きかったと思って感謝しています。

今も近所の人に聞いても「いじめはあるのですよ」と言われているので、勉強だけではなく、コーディネーターさんとか地域のボランティアさんもいらっしゃるので、その辺は目を配って、勉強だけではなくて、そういう子どもたちを作らないようお願いします。

学校に「行ってきます」とニコニコして行くという子どもが、全部ではないことを知ってほしいと思います。

自治協委員

今は小学校で「朝の読書運動」をやっているのでしょうか。昔やっていたように思うのですが。

授業前にそういう読書運動をやっている学校は、やっぱり落ち着いて勉強するという、学力向上につながっているのかなど思ったりしますが、その辺、現状を教えてくださいたいと思います。

それから放課後に、勉強がわからないところを先生に教えてもらえるという状況にあるのでしょうか。

南区教育支援センター所長

朝の読書運動をやっている学校もあると聞いていますが、全部が一律にやっているわけではありません。

私も昨年までいた学校でやっていましたけれども、読書の習慣が身に付いてきたり、朝は全校がシーンと静かに15分程度好きな本を読むことは、静かな雰囲気です1時間目の授業に入っていくたりする効果もあります

先ほど出ましたけれど、どこの学校も宿題ということについては、組織的に取り組んでいます。たとえば、学年×10分、6年生だったら6×10=60分、1時間は家で勉強しましょうねと。それについては自主学習カードなどを作って、記録を子どもたちが自分でとって、翌日、学校の先生に提出して、先生が頑張っているねと励ましたりしながら、家庭学習の習慣化を図る取組はほとんどの学校でやっているのではないかと思います。

自治協委員

小中学校のお子さんを持っているお母さんから、要望がありますかと聞いたところ、家庭で宿題をしないので、できれば居残り学習をしてほしいという声がありました。お母さん方は、学校でもうちょっと勉強してほしいというのが正直なところかと思いました。

南区教育支援センター所長

宿題をたくさん出すと、「うちの子は塾に行っているのに、大変なんです。スイミングも行っていますし、ピアノもいっています。これ以上、宿題出されると困ります。」といった意見も逆に出てきます。学級担任が子どもたちの様子を見て、宿題の量を加

減しているというのが実態かと思えます。

自治協委員

関連して、私の子どもがいる福岡の学校では、週に2回、保護者と大学生が何人か来て、ボランティアで勉強を教え、宿題をやらせているそうです。

今の時代は、学校だけに任せられなくて、PTAも一緒になってやっていかなければいけないのかと感じ、それが良いか悪いかは別として、そういう現実があるのかと思いました。

南区教育支援センター所長

「昨日は4時半から5時半で勉強しました」と子どもが記録をつけても、その中身が大切です。

その子の学習の状況を担任が把握して、この子はよくやっているな、前に比べ変わってきたなといった頑張りや成長を担任が認めて、ほめたりしていくことが大切かと思えます。担任が一人一人の子どもを見るまなざし(愛情)に係ってくるというのは教育の不易の部分だとは思いますが。

自治協委員

テーマに関する案を提案したのですが、学力問題と地域のことについては、係りのある問題ではないと思えます。というのは、基礎学力の調査結果については、平均的に南区は低い、特に中学は低いという結果ですが、南区の中でも学校毎にかなり差があると思えます。その結果について、学校へのフィードバックをどのようにされているのでしょうか。

その原因は家庭での学習に問題があると去年も、同じようなことを言われたと思えますが、家庭学習に対する対策、教育委員会として、どのように保護者と話をしたか、その対応をされているのかをお聞きしたいと思います。

多分、南区の場合は交通の便が悪いので、一部の小学校は3年生まで完全なバス通学ですし、4年生以上になると自転車で、冬期間はバス通学と変わります。家庭での学習をされる場合は、みんな家に帰ってしまうわけですから、その結果については分からないと思えます。

子どもというのは、家に帰ってまで勉強したくないというのは本音だと思います。また、保護者の皆さんは、わりと排他的で人のせいにしやすいと思えます。その意味で、保護者と学校との話し合いというのが重要かと思えます。

また、去年も今年も平均以下というのは何かあるのではないかと。学校の中での教え方に原因があるのではないのでしょうか。新潟市そのものが平均より高いので、そういうところは、どういうふうな家庭と学校との連携をとっているのかお聞きしたい。

南区教育支援センター所長

教育委員会としては、少しずつかもしれませんが着実に効果は上がってきているという認識だと思います。ただ、南区という区でみると課題はあります。日々の授業が、さらに変わらないといけないという根本的なことに関しては、一人一人の先生方の意識改革を含めて、今後もしっかり取り組んでいかなければならないと思っています。

教育委員会事務局

先ほどの話の中で、子どもに「勉強しなさい」とばかり言っても、身に付いていないというのは確かだと思います。教育委員会からも「こんな学習の取り組み方が良いですよ」というお話をしています。

また、学校から家庭に帰る前に、今日、僕は何を家でやるか、ちゃんと計画を立

自治協委員

てて帰るようにするなど、家庭学習の持たせ方も学校では指導しています。

コーディネーターとしては、大勢の学習ボランティアの方々には、普段から学校の活動に協力していただいています。

小中学生の親としては、学校の取り組みもよく分かるのですが、一生懸命やっている子はいろいろやっていると思うのですが、自分の子のようになかなか宿題も気が重いような子どもたちが、どういうふうになれば勉強意欲が湧くのかと日々考えています。

最近、ほめる育て方が盛んなのですが、やはりそれだけでは伸びないのではないかと思うことも多々あります。

白根地区  
公民館長

白根地区公民館は「子どもたちの居場所」ということで、ホール等開放していますし、土日、長期休業期間中には、集会室を学習室というような形で開放しています。

学校と地域との連携という話もありましたが、公民館職員も融合支援主事というような形で、より一層の教育効果が上がるように地域で取り組みを進めています。学校のほうからもいろいろお話があれば、出前講座なども行っています。学習支援を含めて是非ご相談いただければありがたいと思います。

教育委員

貴重なたくさんの意見ありがとうございました。

今日のテーマは「地域と学校の連携について」ということで、子どもの学力についてみんなでできることを考えるという足がかりができたのではないかと、きっと今日のような話し合いを二度、三度繰り返していくとより一層、内容が明確になって、素晴らしいものになってくるのではないかと考えています。

今日の会でお伝えしたいことがあります。皆さんお手元の「全国学力・学習状況調査 新潟市南区の結果」というところの、(4)物事を最後までやり遂げてうれしかったことはありますか。それから、(7)将来の夢や目標を持っていますか。これらが新潟市の中で最高なのです。

じつは、将来の夢や目標を持っていない子は、最近ものすごく多くて、日本全国で大変大きな問題となっています。それに対して、南区の子どもたちは自分の将来の夢や希望、目標を持っていることは誇るべきことだと思います。

こういう子どもが来ているのは、南区の持っている地域性であり、保護者の皆さんの力、そして、学校が何とか頑張っている表れなのだろうと思います。もちろん、学力を上げるために学校も教育委員会もこれからも一層頑張っていかなければならないと今日の話聞いて思ったのですが、こういう素晴らしい子どもの面を是非、地域の大人が子どもたちに自信をつけさせて、そして、南区からもっともっと素晴らしい声を上げたいと思います。

議 事

#### 7 閉会挨拶(自治協第2部会長)

今日は、みなさんありがとうございました。

子どもたちは、本当に日々学校が一番の生活の場となっていますので、一番信頼のおけるのは担任とか学校の先生方かと思います。この間も福島のお子さんが避難してきている中で、担任の先生が心無い言葉を言ったということが、情報化社会でありますのですぐに伝わり、心を痛めています。やはり子どもたちにとっては



「先生が一番だ」と感じます。

また、素直で本当に明るい南区の子どもたちは良いなと私も思いますが、それに加えて学力がますます向上していくように、教育委員の皆さま、また、先生方のご指導とか色々と協力していただきたいと思います。

私たちも地域に戻って「家庭学習をしっかりと行きましょう」と、声掛けしていきたいと思います。今日は本当にいろいろなお話を聞かせていただきましてありがとうございました。